

# 策定にあたって



## 第1章 計画策定の意義と目的

### 1 時代の流れ

昭和54年に初めて総合計画を策定し、その後、第二次、第三次総合計画により、豊かな自然と古くから開けたこの地の歴史を活用し、農業の振興や生活基盤の整備など、まちづくりを進めてきました。

近年、社会経済情勢はめまぐるしい変化を遂げており、少子高齢化の進展、人々の価値観やライフスタイルの多様化、地球規模の環境問題の深刻化、グローバル化<sup>\*1</sup>や情報化の進展など、大きな変化がみられています。一方では、地方分権<sup>\*2</sup>がいよいよ実行段階を迎え、国、府、市町村の関係は、対等、協力の関係となり、市町村は自主的、自立的なまちの魅力づくり、自治体経営のあり方が問われる時代となっています。

今後、住民の町政への積極的な参加、町政情報の積極的な提供など、住民と共に創造し、時代の変化によってもたらされるさまざまなニーズに対応した住みよいまちづくりが求められています。

(※1) グローバル化：市場や経済の国際化、情報通信技術の進展などにより、交流や通商が国を超えて地球規模で拡大すること。

(※2) 地方分権：住民に身近な行政など、国から地方に一部の権限移譲等がなされること。地方にとっては責任が大きくなり、能力も必要となるが、個性豊かでより柔軟なまちづくりが可能となる。

## 2 計画策定の目的

本町においても、このような時代の急激な変化に対応し、将来の河南町にふさわしい魅力あるまちづくりを、住民、事業者、行政の協働<sup>\*3</sup>によって推進していく必要があります。

このような考え方に立ち、これまでの成果を踏まえつつ、住民、事業者、行政が力を合わせて、“住みよいまち 河南町”をつくり、育て、守り続けていくためにめざすべき将来像を掲げ、その実現のための基本的な方向と施策内容を明らかにすることを目的として策定するものです。

この構想は、町政運営を総合的に行う基本的な指針となるもので、町政の最上位計画として、部門別の各種計画の基本となるものです。

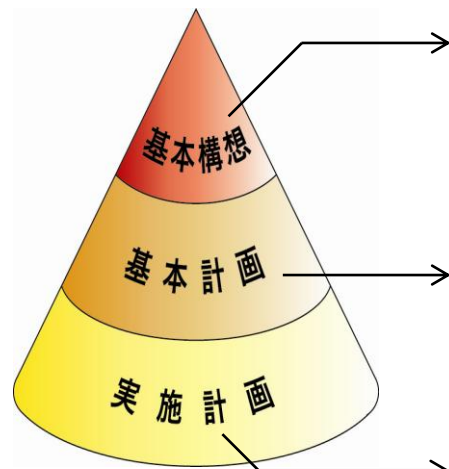
また、住民の皆さんや各種団体、事業者などが、それぞれの役割と責任に応じて積極的、主体的に取り組みを進めていただくうえでの共通の指針となるものです。



(※3) 協働：行政と住民、NPO、企業などが、それぞれの主体性、自発性のもとに、共通の領域において、互いの特性を認識、尊重しあいながら、共通の目的を達成するため、課題解決に向けて協力、協調すること。

## 第2章 計画の構成と目標年次

### 1 計画の構成



本町のまちづくりの基本理念とめざすべき将来像を明らかにし、これを実現するためのまちづくりの基本方針を示したものです。

基本構想に定めた基本方針により、まちづくりの主要施策の内容を示したものです。

基本計画に定めるまちづくりの主要施策を実行するための事業計画です。

### 2 目標年次

この計画の基本構想及び基本計画の目標年次は、おおむね平成32年(2020年)とします。